

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 3 号 令和 6 年 5 月 2 4 日 発行

自分の気持ちにあった言葉を

校長 井村 友美

新学期が始まり、2ヶ月が経とうとしています。1年生は何もかも初めての学校生活に徐々に慣れ、毎日、元気に登校しています。子どもたちの日々の姿から、成長のスピードに驚きを感じています。

5月9日には「1年生を迎える会」が行われました。どの学年も1年生と過ごす時間を楽しいものにするために、そして、1年生に清水小学校をもっと好きになってもらうために計画を立て、クイズを出したり劇をしたりするなど工夫した発表をすることができました。1年生のお礼の発表では、言葉と歌で感謝の気持ちを伝えていました。企画、体育館の装飾、そして司会に至るまで今年も全て子どもたちの手で行い、落ち着いた温かい空気に包まれた素敵な集会となりました。

さて、先日読んだある学校のお便りの記事に「気持ちを表す言葉を、あなたはどれだけ言えますか、使えていますか」という問いがありました。その記事によると、日常の会話やテレビ、ネット等では、プラス感情もマイナス感情も話し手は「ヤバイ」などの同じ言葉で表現されていることが多いとのことでした。

気持ちを表す言葉はたくさんあります。以下はその一例です。

プラス感情の言葉…うれしい、心強い、気が軽くなる、魅力がある、言うことなし など

マイナス感情の言葉…悲しい、辛い、苦しい、腹立たしい、いら立つ、気が進まない など

しかしながら、子どもたちだけではなく大人の私自身も気持ちを表す言葉を豊かに使えているとは言い難いです。

学校では、子どもたちの語彙を増やすため、各学年の国語学習を中心に系統的に指導しています。また、「自らの考えをもち、学びを活かした表現する子の育成」のもと、昨年度から校内研究を進めているとことです。自分の考えを表現する力に豊かな語彙が備わると、対人関係スキルも向上し、もっともっと学校生活が楽しくなると思っています。ご家庭でも気持ちを表す言葉を意識していただけけると幸いです。